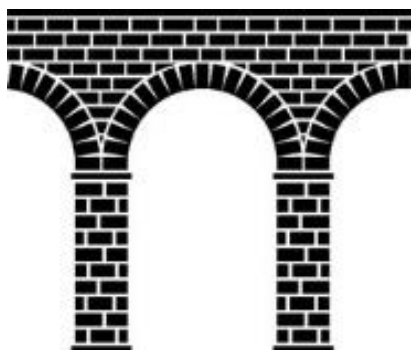


Immanuel Kant *and* the Principle of Sufficient Reason

イマヌエル・カントと充足理由律



ベンヤミン・シュニーダー教授
(Prof. Dr. Benjamin SCHNIEDER)
ハンブルク大学人文学部教授 (哲学)、博士
2016年6月29日 (水)
16:30-18:00
埼玉大学教養学部・33番教室
使用言語：英語

この世で起こる事柄には何事にも理にかなった根拠がある。ライプニッツが唱えた「充足理由律」と呼ばれる原理で、近世ヨーロッパの合理主義を要約する思想と言えます。こうした合理主義的信念の意味するものはなにか、またそもそも「根拠」とはなにか。この講演では、ライプニッツの影響下にあった初期のカント哲学における充足理由律をめぐる議論を検討しながら、これらの問題にアプローチします。

ベンヤミン・シュニーダー教授は、論理学、言語哲学、形而上学などを専門とする哲学研究者で、ハンブルク大学で修士、ジュネーブ大学で博士の学位を取得、ベルリン・フンボルト大学での研究グループ主任を経て2011年からハンブルク大学で現職についています。ボルツァーノ（オーストリアの数学者・哲学者）の存在論をめぐる著書や、「なぜならば (Because)」という言葉の意味と論理をめぐる諸論文、そのほか多数の論文を公刊しています。



問い合わせ先：教養学部・高橋克也研究室